

# 福井県高P連会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会  
(福井県生活学習館「ユニー・アイふくい」内) 平澤良典



「教育と考福」  
未来に引き継ぐ「知と恵み」

福井大会開催される  
大きな感動を全国に

平成二十三年二月に開催を受諾してから準備を進めてきた「第六十四回全国高等学校PTA連合会大会福井大会」が、「教育と考福」未来に引き継ぐ「知と恵み」をテーマに、八月二十一日(木)の研修委員会打合せを皮切りに三日間の幕を開けました。

八月二十一日(木)

- 一一・三〇〇 研修委員会打合せ
  - 一三・三〇〇 分科会別会議
  - 一五・〇〇〇 全国事務局長会議
  - 一六・〇〇〇 大会運営会議
  - 一七・三〇〇 歓迎レセプション
- それぞれの分科会会場で行われた「分科会別会議」は、各分科会担当校の事前準備が良かったため、会議・リハーサルともスムーズに進行し、次年度開催の岩手県視察員の方からお褒めの言葉をいただきました。

ユアーズホテルフクイで行われた歓迎レセプションには、来賓を含めて二四〇余名が参加しました。鏡開きや浜町芸妓によるステージ、そして県酒造組合協賛による地酒コーナーなど、どれも大変好評で、福井大会を盛り上げる素晴らしいレセプションとなりました。

八月二十二日(金)

大会一日目

- 九・〇〇〇 アトラクション
- 九・四〇〇 開会式・表彰式
- 一一・〇〇〇 基調講演
- 一四・〇〇〇 分科会



開会式は、サンドーム福井を主会場に、福井フェニックスプラザと敦賀市民文化センターを副会場に、全国から九千五百名を超える会員が参加して行われました。



開会式前のアトラクションは、サンドーム福井が県吟剣詩舞道総連盟による「吟剣詩舞」、福井フェニックスプラザが勝山高校と福井農林高校による「和太鼓」、敦賀市民文化センターが敦賀工業・若狭・敦賀三校による「吹奏楽と書道のコラボ」で、本県の文化水準の高さを示すことができました。主会場で行われた開会式・表彰式は、副会場へ映像配信されました。佐野元彦全国高P連会長は、式辞で「今回は、明治維新の青写真を描いた橋本左内、横井小楠ゆかりの地、福井が舞台であります。近代日本を生み出す頭脳の役割を担った福井県、今日で



は小中学生の学力・体力が全国トップレベルであり、こうした歴史と教育文化の風土をもつ福井県での大会は、私たちに知的興奮と明日への展望をもたらしてくれるものと信じております。」と述べられました。

次に、北風俊哉福井大会実行委員長は、「子どもたちの縁で全国から会員一堂に会し、一つの想いを共有し、つながり合うことが、全国大会の持つ大きな意義の一つと考えます。いつの時代でも、子どもの健やかな成長と幸福を願う親の思いは変わりません。福井大会が家庭と学校と地域が連携を一層強め、教育に対して正面から向かい合い、共に進んでいこうという契機になればと心から願っております。」と挨拶されました。次いで、下村博文文部科学大臣、杉本達治福井県副知事、奈良俊幸越前市長の祝辞をいただき、その他の来賓の紹介がありました。続いて表彰式に移り、文部科学大臣表彰、全国大会会長表彰がありました。

### 〈福井県の受賞者〉

#### ● 文部科学大臣表彰

鯖江高校PTA

#### ● 全国大会会長表彰(個人)

柿谷 好彦氏(武生工業高校)

十一家博規氏(小浜水産高校)

#### ● 全国大会会長表彰(団体)

奥越明成高校PTA  
敦賀工業高校PTA



表彰式終了後、基調講演が行われました。講師は脳科学者の茂木健一郎氏で、「今求めら

れる考福脳く脳科学者からの提案」と題して、約一時間講演されました。自分の良いところと悪いところを合わせたものが個性だ、悪いところがあってもいい、一〇〇点満点になる必要はない、良いところを伸ばしていけばいいとお話は、参加者に深い感動と示唆を与え、時間が経つのを忘れるほどでした。

福井の食材をふんだんに使った伝統的郷土料理を堪能した後、午後からは七つの会場に分かれて、分科会が行われました。分科会の冒頭には、それぞれアトラクションが行われました。分

科会は、四つの普通分科会と二つの特別分科会、それに全国高P連研究発表でした。

特別第一分科会は「ものづくりの国、巧の技は次代へ」、特別第二分科会は「自然・命、守るべき宝は今も」と、まさしく福井の特色を凝縮した内容で、県内で活動・実践している方々にパネリストとして参加いただきました。また、全国高P連研究発表のテーマは「進路選択と親子のコミュニケーション」で、後半の座談会には、藤島高校と武生商業高校の二年生が子ども代表として参加しました。いずれの分科会も活発な質疑があり、有意義な研修の場となりました。

### 八月二十三日(土)

### 大会二日目

#### 九：〇〇～ アトラクション

#### 一〇：〇〇～ 記念講演

#### 一一：二〇～ 開会式

大会二日目は、武生商業高校の「吹奏楽」と福井商業高校の「チアダンス」でスタートしました。歌って踊れる日本一ファンキーなバンドと全米チアダンス選手権で優勝しているJETS(ジエッツ)のパフォーマン



スは、会場全体を巻き込んで、全国高P連の一体感を実感させる盛り上がりでした。



続いて、県立恐竜博物館特別館長の東洋一氏による「福井の恐竜くアジア、そして世界へ」と題した記念講演が行われました。多くのスライドを使いながらの具体的でわかりやすい恐竜の話は、大変興味深く、多くのことを学ぶことができました。

講演後行われた閉会式では、佐野会長挨拶のあと、「大会宣言(案)」が読み上げられ、満場の拍手により採択されました。続いて、北風実行委員長から佐野会長に全国高P連旗が返還され、佐野会長から次期開催地岩手県の内館実行委員長に授与されました。岩手大



会のPRビデオを見た後、内館委員長から「福井の皆さんからいろいろ教えていただきながら頑張っている教員と思いたいですので、岩手大会をよろしくお願ひします。」という挨拶がありました。最後に、北風実行委員長のお礼の挨拶があり、三日間にわたった福井大会は無事幕を閉じました。

大会には、様々な部署・場面で、一七〇〇名を超える各校のスタッフに協力いただきました。これらの方々の「おもてなし」の心による働きが、福井大会を大成功に導きました。実行委員一同、心からお礼を申し上げます。

## 県教育長との懇談会

十一月六日(木)県庁六階大会議室にて、県教委からは林教育長以下七名、当連合会からは平澤会長以下十二名の役員・単P会長が参加して、懇談会が開催されました。

懇談の内容は、①高等学校再編整備の進め方について ②ICTを活用した新しい授業の実践について ③いじめ等高校生の問題行動を無くすための取り組みについて ④モンスターパーアレンツの現状と県教委の対応について ⑤県教育長が考えるPTA活動について でした。紙面の関係から①と②について、紹介したいと思います。

①については、再編整備が行われた学校では、部活動でも活気が生まれ、生徒もいろいろな資格取得に取り組み、地元に着した研究に取り組むなど活力が生まれている。今後も生徒数の減少が続くので再編整備を進めるが、単なる「数合わせ」にしたくはない。普通科と職業系とのバランスや私学との関係、各地区の子どもの数の状況等も見つつ、県全体を見ながら検討していきたい。また、県内の伝統工芸的な技術を身に付けるような特色ある学科の設置や昼間・夜間を含めた定時制のあり方等も検討していきたい。これまでも再編は十分な準備段階を踏んで行ってきたが、今後も各地区の意見を聴く場を作りながら、一定の時間をかけて行っていきたい。中高一貫に関連して、すべての中学校と高校で実践することができ、中高の学習内容を接続した福井型カリキュラムを作りたい。中心部へ生徒が流れるように、各高校が実績を上げ、魅力をアップするように努めてもらっているとのことでした。

②については、現在、モデル校で新しい授業づくりに取り組んでいる。将来的には、自宅での予習・復習にタブレットを活用し、学校の授業では、予め撮影した映像の先生と実際の先生とのTT(ティーム・ティーチング)を行っていききたい。このことにより、タブレット映像による指導を組み入れながら先生は机間指導で生徒の反応を確かめられるようになり、効率化も図ることができる。情報モラル教育は、教科「情報」の中で行っており、使用するタブレットにも制約・制限がかかっている。スマホ使用の基本的マナーは学校でも指導しているが、家庭の協力も是非お願いしたいとのことでした。

## インフォメーション

### 高校生 オーストラリア研修 十七名が参加

今年で十三回目となった当連合会主催の「福井県高校生オーストラリア生活体験研修」は、県内九校から十七名の生徒が参加して、八月一日(金)から十六日(土)までの十六日間、クイーンズランド州ブリスベン郊外で実施されました。ホームステイをしながら地元の学校に通い、日本とは違う文化や生活習慣に直接触れ、多くのことを学び、体験したのと思います。また、改めて日本を見つめなおす機会になったのではと思います。

十二月中にその「報告書」が完成し、各学校へ送付する予定です。参加した生徒の率直な思い出が語られているものと思えます。興味・関心のある方は是非学校の方へお尋ねください。



# 研究大会・キャリアガイダンス研修会 平成二十六年十一月八日(土)



十一月八日(土)、ユアーズホテルフクイにおいて、「研究大会・キャリアガイダンス研修会」が開催されました。平澤良典会長の挨拶のあと、二つの講演が行われました。

## 講演 I

福井県警察本部刑事組織犯罪対策課暴力団対策室長 杉本雅之氏を講師にお迎えし、『薬物乱用の実態と防止対策等について』と題した講演をいただきました。



杉本氏はまず、薬物の取り締まりが強化されていくが、様々になっているが、様々

な方法を駆使して危険薬物は出回っており、乱用者も芸能界からOL、主婦、中高生にまで広がっているその現状を話されました。

次に、「覚せい剤」や「大麻」「MDMA・MDA」「向精神薬」などの様々な薬物の人体に及ぼす影響や使用例について具体的に述べられました。使用すると神経を興奮させ、眠気や疲労感がなくなり、頭が冴えた感じになるため、受験を控えた中高生が、切羽詰まった気持ちで使用した例や、名前を変えて販売しているため、まさか自分が違法薬物を使用しているとは思っていなかった例などは怖さを感じました。そして、効果が切れると激しい脱力感、疲労感、倦怠感に襲われ、また使用し立ち直ることができずに一生を生きる例が圧倒的に多いと強調されました。

また、最近ニュースで騒がれている「危険ドラッグ」は、バイヤーでさえどのような作用があるのか分からずに販売しているのが現状で、ある意味では覚せい剤や大麻以上に危険であると訴えられました。

今日の講演を聞き、改めてその怖さを子どもたちに伝えなければと強く感じました。

## 講演 II

「自由なる創意の結果が大いなる未来を拓く」という演題で、清川メッキ工業(株)専務取締役 清川卓二氏の講演



をいただきました。清川氏は十八年間学校キャリア教育に携わってこられたとい

うことで、雄壮なオープニングテーマから始まった講演は、その活動の長さによりました。また、スライドの使い方も実に巧みで、照明を落とした会場であるにもかかわらず、参加者はその内容にどんだんひき込まれていっているのが感じられました。

## キャリア教育の五つのステップ

- (1) キャリア教育は、誰のために
- (2) 子どもの自尊心・自己肯定感の高め方
- (3) 社会人・職業人として自立する力とは
- (4) 保護者・学校・地域・企業の協働教育
- (5) 最後に

の順で話が進められていきました。

特に印象深かったのが将来職業を選ぶ時に、どのようなことが大切か？についてのお話でした。これは清川氏が中学生を対象としたキャリア教育のグループディスカッションでテーマの一つとして実施されているものです。中学生の答えは、ほとんどの場合

- 1位 自分に合っている。
- 2位 収入が多い。
- 3位 自分にとってやりがいがある。

という答えになるそうです。しかしそれらはすべて自分中心の考えです。それに対して清川氏はもっと別な価値観を訴えていました。その順位は以下の通りです。

- 1位 自分の強みを活かせる。
- 2位 誰の役に立ちたいかが決まっている。
- 3位 嫌いでない。

その一つ一つを丁寧に説明され、これから職業を選択する子どもたちはもちろんですが、今回の講演会に参加した私たちPTAも改めて考えさせられるものとなりました。

最後に、おしごと探検隊「アントレ・キッズ」を検索すると清川氏の活動や、職業選択のヒントが掲載されています。是非一度ご覧になることをお勧めします。

研究大会・キャリアガイダンス研修会終了後、同会場にて福井大会の反省会を兼ねた教育懇談会が行われました。



林雅則県教育長や船木繁樹校長、協会長の挨拶をいただいた後、北風俊哉実行委員長



の乾杯の発声で始まった懇談会は、大いに盛り上がり、あっという間に時間が経ってしまっただけでした。

# P T A指導者地区別研修会 嶺北・嶺南二地区で開催



平成二十六年年度のP T A指導者地区別研修会は、嶺北地区は九月十三日(土)に県生活学習館映像ホールにおいて九十九名が参加し、嶺南地区は九月二十日(土)に三方青年の家に於いて四十四名が参加してそれぞれ開催されました。

両地区とも「高校生とネット社会」ネットトラブルから子どもたちを守るために」と題して「スマートフォンをめぐる最新事情」「インターネットの特徴とリスク」「トラブル事例」「子どもをトラブルから守るために保護者が知っておきたいこと」「節度あるスマートフォン利用」等について、N T Tドコモ ケータイ安全教室事務局の後藤亜希子氏の講演で始まり、氏は「大人たちが日進月歩進化している通信機器や機能についていけない現状があるが、子どもたちは、親の想像以上に、様々な機器やツールを利用してサービスを使いこなしている。子どもたちが正しく機器を使用できるようにインターネット上に公開するとは様々な犯罪につながることをしつ

かり教えなければならぬ。スマートフォンを『持たせる 持たせない』ではなく、賢く使いこなせるよう指導することが重要。子どもたちはインターネット上で知り合った人と会うことを安易に考えているが、危険があるということを知って欲しい。また、インターネット上に安易な投稿をしないよう教えて欲しい。ネット上では分からないが、調べれば発信元が分かるようになってくる。匿名は通用しないということを知って欲しい。統計で、携帯の長時間利用は体調不良や学校の成績低下につながるという結果が出ているので、子どもの使用については、家庭でルール作りをし、それを徹底して守らせるのもまた大人の役目」と話され、「スマートフォンや携帯電話を持たせるときは『責任』も持たせることだと肝に銘じて欲しい」と結ばれました。大人の想像以上に通信機器を使いこなしている子どもたちに、インターネットの危険性を十分理解させ、フィリタリング端末を利用する等して、保護者として注意・指導していく重要性を考える有意義な講演でした。

引き続き実践発表が行われ、嶺北地区では丸岡高校P T Aと武生工業高校P T Aが、嶺南地区では敦賀工業高校P T Aが日ごろの活動について発表しました。丸岡高校は「豊かな心を育む生徒指



導をめざして」と題し、P T A会長の月城祐司氏と副会長の岩崎真由美氏及び笠川歩美氏の三名が、母親委員会では毎年さまざまな人を招いて生徒とふれあい語り合う活動を行なっていること、総務委員会では卒業式に手渡す花を学校祭のバザーで得た収益で用意している等と発表され、同校のP T Aは、地域密着型で会員も同窓生が多く、さまざまつながりを持つという特色を活かし、他校ではまねできない、いろいろな地域交流の場でもあるとのことでした。



武生工業高校は「家庭教育とP T A、たくみそば」から家庭の絆を」というテーマでP T A会長の平井正文氏が実践発表をされました。P T A活動の中でも特に力を注いでいるのが、学校祭で販売している『たくみそば』で、子どもたちのために何かできないかと考え、この取り組みが始まったそうです。そば打ちの講師を招いて、P T A会員と子どもたち合わせて約五十名が研修会を行い、腕をあげていきます。昨年度は七百八十食もの販売を行い、今年度は八百食を目指して頑張っているそうです。そば打ち・

販売を通してP T A会員の交流の機会となるばかりではなく、子どもたちや先生方との交流を深め、さらには地域との交流を深める素晴らしい機会になっている取り組みで感心しました。



嶺南地区研修会で発表した、敦賀工業高校は「家庭と学校が両輪となった活動をめざして」と題して、P T A副会長の井筒務氏が発表されました。創立から五十三年目を迎える同校は、部活動も盛んで、実力ある優れた工業技術者を育成してきた伝統ある学校です。また、P T A活動も参加者が多く、保護者と教職員が一体となつて楽しく活動している様子が発表から伝わってきました。特に学校祭で毎年保護者が作る五百食もの「名物カツカレー」は、生徒はもちろん先生方にも大好評のことです。準備風景や手作りカレーを食べる大勢の生徒や先生方の映像も紹介され、まさに家庭と学校が一体となる活動だと良く分かりました。また、同校では「秋の奉仕作業」として保護者とセント、先生方合わせて二百名以上が参加して校舎内外の清掃が行われています。特に樹木の雪つり作業は風物詩として定着しているそうです。実践発表からは、生徒や教職員も多く参加する事業もあつて熱心なP T A活動が伺われました。

両地区研修会の参加者は、自分たちのP T A活動の参考にしようと熱心に耳を傾けていました。

# ちよとぼじやましくす!

## Introduction

### 科学技術高校

秋晴れの屋下がり、科学技術高校を訪問しました。玄関で卒業生作品の外来者受付ロボット「科技っ子」の音声案内で出迎えられ、壁には県美展や市美展のデザイン優秀作品が貼られ「さすが科学技術高校」と感心しました。応接室でPTA担当の本多先生から、学校の様子やPTA活動についてお聞きしました。学科は五学科で、生徒数は約五四〇名。男女比は四対一で男子が多いということです。

PTA組織は役員会、総務・行事・生徒指導の3つの委員会構成され、さらに昨年度と今年度は高P連全国大会の準備委員会もありました。

PTAは、強歩大会の給水所で給茶をするのですが、ただ、出発地点が学校というのが珍しいと思いました。意外にも福井農林高校とつながりがあったのが、プランターの植え替えです。PTAと生徒が毎年春と秋にプランターの苗を植え替えるのですが、



外来者受付ロボット「科技っ子」

その苗は本校から購入しているというところで、そのプランターが玄関に並べられ、とてもきれいに育っています。苗の植え替えをした後、生徒と保護者の座談会をし、生徒からの要望を聞き、



植え替えはPTAと生徒が行う

保護者が協力できることを探っていることでした。昨年度は、中庭にベンチが欲しいという要望が出され、保護者と生徒が協力してベンチを作成したとのことでした。

過程や完成ベンチの写真を拝見しましたが、大変素晴らしい出来映えでした。学校祭では保護者がカレーや焼きそば等を作り格安で販売します。その時の生徒や保護者が着用するTシャツは、生徒がデザインしシルクスクリーンで染色します。さすが、ものづくりの高校だと感じました。また、全国高P連福井大会では、生徒が染色した手ぬぐいを販売し、大変好評だったそうです。さらに、ものづくりは保護者にもしっかりと伝わっていて、卒業生のコサージュを手作りします。細かい作業ですが、保護者の方の愛情が一杯詰まったコサージュになることでしょう。

帰りに生徒玄関を通った際、下足箱の美しさに驚きました。生徒玄関はその学校の生徒の様子を表すとかで読みましたが、まさに科学技術高校の生徒の皆さんの落ち着きを表しているように感じました。お忙しい中、対応していただいた本多先生本当にありがとうございます。直接伺うことのできることを学ぶ事ができました。

(取材 福井農林高校PTA会長 宮谷 正志)

## Introduction

### 武生工業高校

武生工業高校は、健全な心身を有し、地域を支える心ある技術者の育成を目標とし、五十余年の歴史の中で送り出された卒業生は、今や地元の産業の中心となつて堅実な活躍ぶりを見せています。

現在、都市・

建築、電気、工業化学、電子機械の四学科に三百九十名の生徒が学んでいます。班ごとに分かれて行う少人数の実験・実習や、パソコンやCADの最新技術を多く取り入れた授業で、幅広い教育効果を上げており、夢と可能性の実現に向けて各種資格の取得に全力をあげて取り組んでいるそうです。



貯水槽の建設

PTAは、各クラスから選出された評議員約三十名が実行委員会を組織し、総務、進路広報、健全育成の三つの専門委員会のいずれかに所属します。役員会は正副委員長・会計・監事・各委員会の正副委員長により構成されています。

主な活動は、五月のPTA総会、七月のPTA研修会、九月のそば打ち研修会、十月の学校祭での「たくみそば」の出店、年二回の実行委員会開催、学校行事への参加協力です。

同校独自のPTA活動に「たくみそば」があり、学校祭に出店しています。

この企画は、調査広報委員が直接「ちよととobjやま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われるものを紹介していくものです。



たくみそば出店

PTAとして、子供たちのために何かできることはないかと考え、平成十一年にスタートしたそうです。名前の由来は、校歌にも歌われている「匠(たくみ)の技を研鑽し身につける」という意味からとられたもので、武生工業高校独自の精神を表し、その精神をPTAも持ち続けたいとの気持ちから名付けたと聞きました。今年度でこの取り組みも十六回目を迎えました。

当日の出店に備えて、講師を招いて、そば打ちの研修会も行っており、そば打ちの腕を磨くとともに、和やかで会員同士の良い交流の機会ともなっているようです。また、越前市の特別支援学校に、おろしそばの器の制作を依頼するなど他校との交流の機会でもあります。

売上金の一部は近くの児童養護施設に寄付するなど募金活動にも協力しているそうです。

「今後も『食』を通して、子供たちとのコミュニケーションをはかり、地域の方々に武生工業高校を理解してもらえよう活動したい」として「保護者と先生がお互い助け合い、信頼関係をなお一層築けるよう努力していきたい」と、同校の平井正文PTA会長は語っておられました。

(取材 丹生高校PTA会長 時田 和一良)

# 第34回 近畿高等学校総合文化祭 福井大会

大会公式ホームページ：[http://www3.fukui-c.ed.jp/~kinsou\\_34/htdocs/](http://www3.fukui-c.ed.jp/~kinsou_34/htdocs/)



総合開会行事での感動的なグランドフィナーレ

第三十四回近畿高等学校総合文化祭福井大会が、十一月七日(金)から十六日(日)までの十日間、福井市、坂井市、鯖江市、敦賀市の四市十一会場にて、十七部門で開催されました。本県での開催は九年ぶり四回目で、「掘りだそう！育もう！若き文化のたまごたち」のテーマのもと、県内外の約五千人の高校生が集い、多彩な文化活動を繰り広げました。

十一月八日(土)に県立音楽堂にて開催された総合開会行事は、ハープのアンサンブル演奏で幕開けし、林雅則教育長の開会あいさつ、石塚博英副知事の歓迎のことばに続き、浅井美樹生徒実行委員長(北陸高三年)が生徒代表のあいさつを述べました。続く福井県デモンストレーションでは、「福井記憶博物館へようこそ」と題し、太古から現在までの福井と近畿圏の文化的交流を、演劇、郷土芸能、合唱、吹奏楽等の各部会が、時代の流れに沿って演出しました。そして、グランドフィナーレでは、出演者全員の大合唱によって感動的なステージを創り上げ、多くの観客を魅了しました。

今回の文化祭の開催にあたり、各高等学校のPTAの皆様をはじめ、関係の方々からいただきました御支援、御協力に心から感謝申し上げます。

(福井県実行委員会事務局)



生徒実行委員長あいさつ (浅井美樹)



府県紹介 (福井県)



吟詠剣詩舞 (県内9校合同)



郷土芸能 (福井農林高校 勝山高校 北陸高校)

# 高校生総合保障制度

## 「事故受付状況と保険金請求手続について」

二〇一四年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やさまざまなお問い合わせが保護者の皆様から当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続についてご案内いたします。

### 一、事故受付状況について

二〇一四年九月までの事故受付状況ですが、事故件数は一五九件ご請求をいただきました。件数の内訳ですが、後遺障害保険金といった重大な事故での保険金請求はございませんでした。事故の内容ですが、最も多いのはスポーツ中の事故となっており、次いで自転車運転中の事故となっております。

この保障制度ではケガ以外に第三者への賠償事故も対象となっておりますが、今年度は十二件報告されております。自転車に乗って歩いて歩行者や他の自転車と接触しケガをさせてしまうケースや、学校内の窓ガラスなど備品の破損が多く、また、誤って友人の持ち物を壊してしまったり、場合によっては人に怪我を負わせてしまうケースさえあります。もちろん故意に行ったものではありませんが、保険があるという事で役立っているようです。

最後に、ケガだけでなく病気の入院を補償するプランに加入されている方もいらっしゃいますが昨年度は十一件のご請求がございました。疾病の内容は熱中症やヘルニア、急性胃腸炎などで入院され、ご請求をいただいております。昨今の医療費の増加傾向についてはご存知の通りです。今後は病気も含めた補償もお子様のために検討頂ければよりご安心かと存じます。

### 二、保険金の請求方法について

#### ケガをした場合

①事故の連絡先(フリーダイヤル01200300399:二四時間受付)まで事故の状況につきましてご連絡ください。必要書類等につきましてご案内いたします。

②ケガによる入院が終わった後、傷害保険金請求書に必要事項をご記入の上、保護者の署名捺印をして、指定の宛先まで郵送ください。その際、診察券、治療費領収証(いずれもコピー可)を添付していただければ診断書は不要です。(但し、重大事故の場合には別途診断書を)ご手配いただくこともあります。

#### 賠償事故の場合

お手元の加入者証記載の事故連絡先(フリーダイヤル01200300399:二四時間受付)までお電話ください。担当者より手続方法をご案内いたします。

#### 病気の場合

病気も補償されるプランに加入されている方で保険金請求をされる場合も上記フリーダイヤルにご連絡ください。お手続きについて別途、案内させていただきます。

## 1. 概要

- (1)傷害補償：加入した高校生の3年間、1日中24時間のケガや万一の場合について補償されます。※Sプランについては病気補償もされます。
- (2)賠償責任：高校生がややまって他人にケガをさせたり、他人の物を壊したときの法律上の賠償責任が補償されます。
- (3)加入した高校生だけでなく、同居の家族全員が利用できる「医療・健康相談」制度があります。(通話料無料)
- (4)この制度は、主として新入生を対象としています。

## 2. 内容 (Sは病気補償+地震補償、Aは地震補償付き)

補償内容	病気補償+地震補償		地震補償		自転車重点補償		
	Sプラン	Aプラン	Bプラン	Cプラン	Cプラン	Cプラン	
①個人賠償責任補償 (一事故あたりの支払限度額)	(最高)5,000万円	(最高)3,000万円	(最高)3,000万円	(最高)3,000万円	(最高)3,000万円	(最高)3,000万円	
②育英費用補償	(一時金)100万円	(一時金)100万円	(一時金)100万円	(一時金)100万円	(一時金)100万円	(一時金)100万円	
③学校管理下財産補償 (自己負担額1,000円)	契約年度毎に 最高5万円	契約年度毎に 最高5万円	契約年度毎に 最高5万円	契約年度毎に 最高5万円	契約年度毎に 最高5万円	契約年度毎に 最高5万円	
④自転車事故による 傷害(ケガ)の補償	死亡保険金額	610.1万円 (475.5万円)	584.2万円 (462.6万円)	572.1万円 (459.7万円)	519.2万円 (429.7万円)	519.2万円 (429.7万円)	
	後遺障害保険金 (障害の程度によって)	約18.3万円~610.1万円 (約14.2万円~475.5万円)	約17.5万円~584.2万円 (約13.8万円~462.6万円)	約17.1万円~572.1万円 (約13.7万円~459.7万円)	約15.5万円~519.2万円 (約12.8万円~429.7万円)	約15.5万円~519.2万円 (約12.8万円~429.7万円)	約15.5万円~519.2万円 (約12.8万円~429.7万円)
	手術保険金 (所定の手術の種類によって)	2.1・4.2・8.4万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.9・3.8・7.6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	補償しません
	入院保険金日額 (180日限度)	6,100円	5,900円	5,500円	5,500円	4,000円	4,000円
	通院保険金日額 (90日限度)	3,400円	3,200円	3,000円	3,000円	2,000円	2,000円
⑥傷害医療費用補償 (1事故あたり)	最高50万円	最高50万円	最高50万円	最高50万円	最高50万円	補償しません	
⑤自転車事故以外の 傷害(ケガ)の補償	死亡保険金	230.1万円 (167.5万円)	204.2万円 (154.6万円)	192.1万円 (151.7万円)	139.2万円 (121.7万円)	139.2万円 (121.7万円)	
	後遺障害保険金 (障害の程度によって)	約6.9万円~230.1万円 (約5.0万円~167.5万円)	約6.1万円~204.2万円 (約4.6万円~154.6万円)	約5.7万円~192.1万円 (約4.5万円~151.7万円)	約4.1万円~139.2万円 (約3.6万円~121.7万円)	約4.1万円~139.2万円 (約3.6万円~121.7万円)	約4.1万円~139.2万円 (約3.6万円~121.7万円)
	手術保険金 (所定の手術の種類によって)	2.1・4.2・8.4万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.9・3.8・7.6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	補償しません
	入院保険金日額 (180日限度)	2,100円	1,900円	1,500円	1,500円	1,500円	1,500円
	通院保険金日額 (90日限度)	1,400円	1,200円	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円
⑥傷害医療費用補償 (1事故あたり)	最高50万円	最高50万円	最高50万円	最高50万円	最高50万円	最高50万円	
⑦細菌性食中毒補償						補償します	
⑧熱中症補償						補償します	
⑨地震・噴火・津波補償						上記②⑤⑥の内容で補償します	
⑩病気の補償	疾病入院医療保険金日額 (1泊2日以上入院・60日限度)	2,000円					
	疾病手術医療保険金 (所定の手術の種類により)	2・4・8万円				補償しません	
	疾病入院療養一時金 (60日以上入院が必要と診断された場合)	20万円					
24時間医療健康電話相談	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
制度掛金 (3年間一括)	35,000円	28,000円	20,000円	20,000円	10,000円	10,000円	

制度掛金には制度運営費140円を含みます。上記保険金額・掛金制度は、加入者1,000名以上の場合です。1,000名未満の場合は保険金額が変更になります。詳しくはパンフレットにてご確認ください。

● お問い合わせ先・連絡先 ●

福井県高等学校PTA連合会「高校生総合保障制度」事務局

〒910-0006 福井市中央3-3-23 北陸中央ビル5階 AIU損害保険株式会社内 TEL 0776(28)0144 (月~金、9:00~17:00)  
引受保険会社/AIU損害保険株式会社